公開講座「東京で考える沖縄・辺野古」 第五回

なぜレイプはくりかえされるのか？

--米軍統治下の構造から--

2017年 3月4日（土）

本講座の問題意識

- 感情的ととらえられがちな（レイプに対する）沖縄の抗議活動は、どのような歴史的・構造的な沖縄支配への批判を含んでいるのだろうか。

→性暴力を個人的問題と帰するのではなく、どのように暴力が制度の中で作り出されているのかということを問う。

暴力の構造化

- 平和研究における「構造的暴力」

ヨハン・ガルトゥング「構造的暴力（structural violence）
→直接的な暴力だけでなく、貧困、差別など間接的な暴力をも含む。

「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」（1995年に正式に設立）
→ジェンダーの視点から「構造的暴力」の意味を提起する
　軍隊＝構造的暴力、「軍隊は制度化された暴力である」
→軍事的国家安全保障制度においては、軍隊による女性に対する暴力は不可避であると考える。

秋林こずえ「安全保障とジェンダーに関する考察」（2004）

- 軍隊による暴力はどのように制度的および社会的に生み出され、そして維持されているのか。

軍隊が生み出す女性への性暴力という視点

- 歴史学における軍隊と性売買・性犯罪の関係についての研究。
- 米軍統治期のコザという場がなぜ重要なのか？

米軍の海外駐留

・19世紀末：ハワイ、フィリピン、パナマ、中国など海外に駐留しはじめた米軍は売春管理策に本格的に取り組む。

・第二次世界大戦中：海外に大量の軍隊を派遣駐留させるようになる（それ以前までは20数万人規模の軍隊から最高時には1200万人の軍隊に膨れ上がる）。

・朝鮮戦争（1950～）勃発：朝鮮半島に大量の米軍が投入されるとともに日本はそれらの舞台の経由地となる。米陸軍の駐屯地周辺などに売春地域が形成される。

→沖縄では朝鮮戦争前後に基地建設ブームが起こる。

（例）1953年「土地収用令」→銃剣とブルドーザーによる暴力的な土地接収

→基地建設本格化とともに、その周辺に歓楽街が軍の示唆で作られる。

林博史「東アジアの米軍基地と性売買・性犯罪」（2006）
「基地論--日本本土・沖縄・韓国・フィリピン」（2006）

被害者落ち度

- 2016年4月、沖縄県うるま市で発生した事件に関する、ケネス被告の発言

  ・「（事件が起きたあの場所に）あの時居合わせた彼女（被害女性）が悪かった」（『琉球新報』2月15日）

  ・ The suspect, Kenneth Franklin Shinzato, “didn’t fear being caught because of Japan’s low rate of reporting sexual assaults … due to cultural and social stigma,” according to a Stars and Stripes article published on Feb. 14. （*The Asahi Shimbun*, February 16）

- 高里鈴代「加害者が被害者の落ち度を主張するのは性犯罪の特徴だ。被害者の落ち度を指摘することで自分の身を守り、罪を軽くしようとするからだ。性暴力に寛容な社会があるため、そのような主張が出てくる。」（『琉球新報』2月15日）

暗数が大きい性暴力

- 日本の刑事司法が強かんを「親告罪」としている。
- 1960年に日米安全保障条約と同時に締結された日米地位協定
- 性暴力被害者に対するバッシング（セカンドレイプ）

（例）

・2008年に起こった海兵隊員による女子中学生に対する性暴力事件

→訴え出た被害者に対してネットなどで激しいバッシング（米兵に近づいた「落ち度」が被害者にある）が繰り広げられ、被害者は訴えを取り下げた。

・2005年に米空軍兵士による少女への暴行事件が起こったとき、1980年代に高校から帰宅途中に米兵と思われる男性たちに集団で強かんされた女性が、富田由美の仮名で稲嶺恵一知事（当時）に公開書簡を送り、普天間飛行場の代替施設の県内での建設に反対を表明してほしいと求めた。

→町村信孝外相（当時）「在日米軍や日本の自衛隊があるからこそ、日本の平和と安全が保たれている側面がすっぽりと抜け落ちている。その分には一切触れず、ただある一面だけをとらえて物事を決めるのはバランスが取れた考え方とは思えない」

秋林こずえ「軍事主義と性暴力」（2016）

I Can Kill You

- 2005年に稲嶺知事に出された公開書簡

  「そのとき米兵は「I Can Kill you」と言いました。「殺すぞ」ではなく「殺せるぞ」と言ったのです」(『沖縄タイムス』2005年7月9日)

- 新城郁夫による応答

  「ここでの訴えが明らかにしているのは、レイプする人間のなかに身体化された欲望が、性欲『本能』などという認識では説明のつかない人間存在そのものへの破壊欲動であり、しかもその欲動が、軍隊という暴力システムによって極めて権力的な形において構造化されていることである。」(『攪乱する島--ジェンダー的視点』(2008))

参考文献

- 秋林こずえ「安全保障とジェンダーに関する考察：沖縄「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」の事例から」『ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報』2004年。
- 秋林こずえ「軍事主義と性暴力」『沖縄県史　各論編8　女性史』、2016年。
- 新城郁夫編『沖縄・問いを立てる3：攪乱する島--ジェンダー的視点』社会評論社、2008年。
- 林博史「東アジアの米軍基地と性売買・性犯罪」『アメリカ史』No.29、2006年。
- 林博史「基地論--日本本土・沖縄・韓国・フィリピン」『岩波講座アジア太平洋戦争　第7巻　支配と暴力　Ⅳ支配の継続と再編』岩波書店、2006年。
- 藤目ゆき「冷戦体制形成期の米軍と性暴力」『女性・戦争・人権』2号、1999年。